

世界のオレンジ果汁価格が中長期的に高騰

[FreshPlaza](#) 2025年10月22日

英国では過去5年間でオレンジ果汁の価格が2倍以上に上昇し、2020年には1リットル当たり0.76ポンド(0.93ドル)であったものが、2025年には1.79ポンド(2.18ドル)となり、134%の上昇となった。過去1年間だけでも29%の上昇が見られ、レストランやカフェでも同様の値上がりが確認されている。この価格上昇は、作物の病害、異常気象、それに貿易障壁による世界的な供給の制約を反映している。

英国バジルドン市に拠点を置くジェラルドマクドナルド社では、ブラジルから輸入された冷凍濃縮オレンジ果汁がドラム缶で届き、ブレンドと包装が行われている。同社の経営責任者であるマクシム・マクドナルド氏は、世界的な価格は、5年間の不作を経て、過去10年で1ポンド当たり1ドルから5.30ドルへと上昇し、過去最高価格に達したという。同氏は「昨年の9月頃、価格は異常な水準まで急騰した。最も悪い時期には、1kg当たり7ドルの提示を受けた。このような主要商品が2ドルから7ドルになるのは異常なことだ」と語った。

世界の濃縮オレンジ果汁の大半を供給するブラジルでは、長引く干ばつとカンキツグリーニング病の蔓延により、1988年以来最低の収穫量を記録した。一部の地域では、果樹の3分の2が病害に侵されている。モロッコ、エジプト、南アフリカもオレンジを生産しているが、それらの国の供給量は限られている。スペインは主に生果を輸出しており、最近のバレンシア州での洪水により出荷量が減少した。

米国では、フロリダ州のオレンジ生産量がハリケーンとカンキツグリーニング病の影響で大恐慌以来の最低水準にまで落ち込んでいる。マクドナルド氏は、「今では『フロリダオレンジ』と表示する必要がある場合を除いては、フロリダ州産オレンジを購入している人は少ない。フロリダ州からオレンジを入手するのは非常に困難で、価格も高すぎる」と述べた。

カンキツグリーニング病は糖度も低下させるため、果実の甘さが減少する。コストを抑えながら風味を維持するため、マンダリンを使用したり、オレンジ果汁にリンゴ、ナシ、マンゴー、クレメンタイン等をブレンドしたりする製造業者も現れている。米国では「トロピカーナ」ブランドが最近、低価格のブレンド製品を発売しており、英国のスーパーマーケットでも同様の傾向が見られる。

貿易政策も価格上昇の要因となっている。ブラジル産オレンジ果汁に対する米国の10%の関税や米国に対するカナダの報復関税は貿易を阻害している。英国では2024年に関税の見直しが行われたが、世界的な濃縮果汁価格の上昇が大きいと、その効果は限定的であった。さらに、拡大生産者責任(EPR)制度による新たな包装規制もコスト増加の一因となっている。

世界のオレンジ果汁消費量は過去20年間で30%減少しており、特に西側諸国で顕著である。一方で、中国、南アフリカ、インドでは需要が増加している。ブラジルの最近の収穫量の回復により価格が安定する可能性もあるが、業界の専門家らは、大手果汁製造業者による寡占と病害リスクの継続が、引き続き市場の不安定性をもたらすであろうと警告している。

出典: BBC